

平成 25 年度事業計画

自 平成 25 年 4 月 1 日
至 平成 26 年 3 月 31 日

一般社団法人日本透析医学会

目 次

1. 総務委員会	(3)
2. 財務委員会	(5)
3. 編集委員会	(5)
4. 学術委員会	(5)
5. 統計調査委員会	(7)
6. 専門医制度委員会	(7)
7. 国際学術交流委員会	(10)
8. 評議員選出委員会	(11)
9. 保険委員会	(11)
10. 倫理委員会	(11)
11. 腎不全総合対策委員会	(11)
12. 危機管理委員会	(12)
13. 研究者の利益相反等検討委員会	(12)

1. 総務委員会

1) 年次学術集会

第58回日本透析医学会学術集会は、日本赤十字社 福岡赤十字病院 副院長 平方秀樹会長が主宰し、平成25年6月21日(金)・22日(土)・23日(日)の3日間、福岡国際会議場等を会場として開催する。今回のメインテーマは「全人力! 科学力! 透析力! for the people!」—Power of Humanity! Power of Science! Power of Dialysis! For the people!—を掲げて開催する。

<特別講演>

「日本医師会の医療政策～地域医療再興をめざして～」

「Fifty years of renal replacement therapy : personal recollections of a kidney patient」

「私の腎臓病との付き合い」

<招請講演>

「Update on Obesity Paradox, Reverse Epidemiology and Protein-Energy Wasting in CKD」

「A phosphate-centric paradigm for pathophysiology and therapy of chronic kidney disease」

「Chronic kidney disease : a clinical model of premature aging」

<会長講演>

「Vertes, エリスロポエチン, ガイドライン～いつも, 胃心のまわりで～」

<International Symposium>

「Special Session on Dialysis Therapy in Asian Countries」7題, 「CKD-MBD International Symposium : MBD and prognosis」6題

<シンポジウム>

「急性腎障害 (AKI) の基礎と臨床」5題, 「バスキュラーアクセスガイドラインの目指すところ」8題, 「CKD-MBD : up-to-date」5題, 「高齢者透析導入の modality と comorbidity～実臨床において配慮すべき点は何か～」5題, 「透析医療と社会経済」5題, 「透析患者のターミナル期を考える～生活援助の視点から～」7題, 「On-line HDF : 保険認可を得ての展望と課題」5題, 「透析患者の心血管系合併症」6題, 「糖尿病透析患者の管理の特殊性」6題, 「腎性貧血を標的とした新しい創薬に向けて」6題, 「透析医学・医療における挑戦すべき課題～未来へのメッセージ～」7題, 「透析における更なる安全確保のための臨床工学」5題, 「長時間透析～より良い透析医療の普及のために～」5題

<ワークショップ>

「透析患者のよい眠りを考える」5題, 「次世代透析療法, 人工腎臓開発の展望」7題, 「全人力をより高めるための透析チーム医療～専門職それぞれのあるべき姿～」6題, 「ここが知りたい透析患者の薬物療法の疑問」5題, 「在宅血液透析の総合評価」6題, 「CKD-MBD (臨床)」6題, 「透析患者の認知症～病態から社会的ケアまで～」6題, 「バスキュラーアクセスの今後の方向性を探る」7題, 「腎症貧血治療における適切な鉄管理」8題, 「透析患者における心筋脂肪酸代謝イメージング」5題, 「透析患者の重症虚血肢に対する治療」7題, 「東日本大震災の被災現状と今後の対応について」7題, 「腎不全看護におけるマネジメント, その現状と課題」6題

<教育講演>

「CKD および老化と FGF23/*klotho*」, 「腎不全と腎移植, 糖尿病と膵移植～その現状と展望～」, 「腎移植後透析再導入患者の管理」, 「慢性腎臓病および透析患者の脳血管障害」, 「臨床疫学研究の基礎」, 「膝下単独病変による重症虚血肢症例に対する血管内治療の現状」, 「治療抵抗性高血圧に対する腎デナベーション」, 「透析患者における脂質異常症」, 「臨床応用に向けた腎臓再生研究」, 「透析患者の骨疾患 : 診断と治療～最新の進歩～」, 「高齢者の腹膜透析～在宅医療へのパラダイムシフト～」, 「バスキュラーアクセス～考え方と作り方～」, 「透析医療と医療の質改善 (Quality Improvement)」, 「危険な鉄の安全域」, 「急性腎障害 (AKI) の最近の話題～尿管の再生はどこまで可能か～」, 「透析患者における慢性炎症と栄養」, 「透析患者にも適応できる体液異常と輸

液の基本的な考え方], 「ゲノム研究とオーダーメイド医療」, 「臨床疫学への招待」

<よくわかるシリーズ>

「バスキュラーアクセスⅠ」, 「バスキュラーアクセスⅡ」, 「透析患者の合併症Ⅰ」, 「透析患者の合併症Ⅱ」, 「多発性嚢胞腎」, 「栄養管理」, 「ファブリー病」, 「透析効率」, 「On-line HDF」, 「ウイルス性肝炎」, 「CKD-MBDⅠ」, 「CKD-MBDⅡ」, 「腹膜透析」, 「腎移植Ⅰ」, 「腎移植Ⅱ」, 「透析患者の合併症Ⅲ」

<学会・委員会企画>

『腎性貧血治療ガイドライン委員会企画:「新しい腎性貧血治療ガイドラインを目指して」6題』, 『血液浄化機能効率に関する学術小委員会企画:「HDF フィルタに求められる性能」6題』, 「透析用血液回路標準化基準と安全管理」1題』, 『統計調査委員会企画:「世界に発信する我が国の透析」6題』, 『透析導入・非導入委員会企画:「終末期患者に対する慢性血液透析療法の見合わせ」6題』, 『国際学術交流委員会企画:「Treatment strategy for ESKD patients: Conservative or Dialysis?」5題』, 「Dialysis patients and malignancy: Do they have higher incidence?」4題』, 『腎不全総合対策委員会企画:「ESRD (CKD5) の総合対策」7題』, 『保険委員会:「診療報酬改定の課題と問題点」4題』, 『専門医制度委員会企画:「専門医制度の現状と課題」6題』, 『男女共同参画推進委員会企画:5題』

<企業共催シンポジウム>

「中性化PD液が日本のPD療法に与えた影響」4題, 「透析治療の最難関問題 そう痒症に挑む」5題, 「腎性貧血治療における国内エビデンス～これまでにわかってきたこと, 今後の展望～」6題, 「DOPPS」8題, 「PD30年の成果と展望」4題

<市民公開講座>

平成25年6月29日(土) 福岡国際会議場メインホールにて開催 予定

2) 通常総会

第58回通常総会を, 平成25年6月20日(木) 16:00～ ホテル日航福岡 都久志の間Ⅲにおいて開催する.
学会賞・奨励賞講演を, 平成25年6月22日(土) 16:30～17:30 福岡国際会議場メインホールにおいて開催する.

3) 役員会

- ・常任理事会・理事会:平成25年5月・6月・11月・平成26年3月 計4回開催する.
- ・監査会:平成25年6月に開催する.

4) 透析施設会員名簿の発行

会員名簿は例年どおり発行されるが, 個人情報保護の観点から, 電話番号や責任者氏名などの公表を希望しない施設については, 引き続きその情報を掲示しない方針である.

会員専用ホームページに検索マップが開設され, 施設・賛助会員の検索ができるようにしたが, さらなる充実を図るとともに個人情報の観点から, 施設の公表を希望しない場合には情報を掲示しない方針である.

5) 小委員会

(1) HP・電算機小委員会

学会ホームページ(HP)の円滑な運営, 内容の充実を図る.

- ① 学会活動ならびに関連情報の迅速な公開・更新を行う.
- ② 各種委員会, 小委員会, ワーキンググループ活動内容を積極的にHPに掲載する.
- ③ 会員専用ページの内容の充実を図る.
- ④ HPリニューアルについて検討する.

(2) 腎不全看護師・栄養管理士育成ならびに腎臓病薬物療法認定薬剤師・専門薬剤師認定・育成に関わる小委員会

- ① 腎不全看護師育成に関する助言と問題点への対策を行う.
- ② 腎臓病薬物療法専門・認定薬剤師認定制度に対する助言と共同認定を行う.

③ 栄養管理士育成に係る問題点等を取り上げ、対策を検討する。

(3) 感染調査小委員会

本小委員会は院内感染の集団発症が発生した時には、関係者の協力を得て機動的に対応するとともに、今後発生頻度が高いと思われる感染症の事例に機動的に対応する。

(4) 法人問題検討小委員会

本小委員会は、新法人移行後にもたらされる各種の問題点に適宜対応する。

(5) 男女共同参画推進小委員会

第58回日本透析医学会学術集会・総会におけるシンポジウムで、「透析医療と男女共同参画」を行う。

6) 学会との連絡、協力関係

① 日本医学会、② 日本慢性腎臓病（CKD）対策協議会、③ 透析療法合同専門委員会、④ 内科系学会社会保険連合、⑤ 臓器移植関連学会協議会、⑥ 末期腎不全治療説明小冊子作成、⑦ 糖尿病性腎症合同委員会、⑧ 登録腎生検予後調査検討委員会、⑨ 日本透析医会との連絡協議会、⑩ 日本医療器材工業会と日本透析医学会の連絡協議、⑪ 日本専門医制評価・認定機構、⑫ 血液浄化療法業務ガイドライン策定委員会等関連各学会等と協力、連携を密にしていく。

2. 財務委員会

平成20年12月に新公益法人制度が施行され、これに伴い本学会も平成24年9月3日付けをもって一般社団法人に移行した。一般社団法人への移行と共に本学会の財務管理を平成20年度改正の新・新公益法人会計基準に則り、新・新基準による経理を実施し、貸借対照表及び正味財産増減計算書等を軸とした本学会活動の正確な各事業別損益の把握をして、より適切な財務管理を目指す。また、移行法人としての期間は、公益目的財産額の把握及び公益目的支出計画の作成等法人の基本情報、公益目的支出計画実施報告書の作成を適正に行う。

以上を踏まえて、税務を含めた適正な会計処理を継続的に遂行し、学会として各常置委員会、小委員会の諸事業を積極的に推進し、多大な成果が得られるよう財務を通じて協力助成すると共に財務業務の全般的な見直しを継続して検討する。

3. 編集委員会

1) 和文誌について

日本透析医学会雑誌を毎月1冊、年間12冊を発行する。

学術集会特別号（抄録集）を supplement として発行する。

引き続き、科学技術振興機構（JST）の J-STAGE にて和文誌の電子ジャーナルを公開していく。

電子投稿・査読システムのさらなる充実を図る。

2) 欧文誌について

Therapeutic Apheresis and Dialysis（TAD）を引き続き年6回刊行する。

また、本学会独自の欧文誌の発刊を検討していく。

4. 学術委員会

1) 学会賞・奨励賞の選出

選考規定に則って学会賞・奨励賞の選考を行い、理事会の承認を得る。

2) 学術委員会活動（ガイドライン、提言等の作成、広報活動）等に関する協議

学術委員会の会合を定期的で開催し、学術委員会関連小委員会と共同してすべき学術活動に関して協議・遂行

する。

3) 血液浄化療法セミナー

若手医師，研修医等を対象とした透析療法を中心とした血液浄化療法に関する基本的知識を深めていただくこと，最新的话题を提供すること等を含んだ血液浄化セミナー（仮）を年1回程度開催する。

4) 小委員会活動

(1) 血液浄化療法の機能・効率に関する小委員会（川西秀樹委員長）：

- ① 日本臨床工学技士会，日本医療器材工業会人工腎臓部会の協力を得て「ISO 対策ワーキンググループ」を継続し，本邦の見解をISO基準へ反映させる。
- ② 第58回学術集会での委員会セッション企画：以下の委員会セッションを行うこととした。
 1. HDF フィルタに求められる性能
 2. 透析用血液回路標準化基準と安全管理
- ③ 新たな「血液浄化器機能分類」を検討し，学会誌に掲載する。
- ④ 新たな透析スケジュールに適合するシステム（透析液組成を含めた）を検討する。

(2) ガイドライン作成小委員会（政金生人委員長）

① 血液透析療法ガイドライン（渡邊有三グループ長）：

血液透析療法ガイドラインの作成にむけて，各サブグループでタスクフォースを組織し，活動を行う。
第58回学術集会において下記のセッションを開催する。

慢性血液透析の非導入と継続中止に関する提言（委員会企画）を開始，本提言の完成に向けて，活動を行う。

「透析導入基準」「透析処方」に関してはガイドライン案を作成し，公聴会開催，ガイドライン作成に向けて活動を行う。

② CKD-MBD ガイドライン（深川雅史グループ長）：

一般社団法人日本透析医学会「慢性腎臓病に伴う骨・ミネラル代謝異常の診療ガイドライン Clinical Practice Guideline for CKD-MBD 透析会誌 45 (4) : 301~356, 2012」の Therapeutic Apheresis and Dialysis への上梓をもって活動を終了とする。

③ バスキュラーアクセスガイドライン改訂（久木田和丘グループ長）：

ガイドラインの Therapeutic Apheresis and Dialysis 発表をもって活動を終了とする。

④ 透析患者の糖尿病治療ガイドライン（中尾俊之グループ長）：

一般社団法人日本透析医学会「血液透析患者の糖尿病治療ガイド 2012」（英語版）を Therapeutic Apheresis and Dialysis に発表する。

⑤ 栄養問題検討ワーキンググループ（菅野義彦グループ長）：

「成人の維持透析患者に対する食事療法基準」の作成に関する活動を行う。

1. 統計調査委員会と連携し，わが国の透析患者に関するデータから食事療法にかかわる部分を抽出し，摂取量，評価法などについて食事療法基準改訂の準備を行う。
2. 日本腎臓学会の「慢性腎臓病に対する食事療法基準」改訂作業に協力し，透析患者に関する部分を答申する。食塩摂取量に関しては日本高血圧学会などの関連学会との議論の場を設ける。

⑥ 腎性貧血ガイドライン改訂ワーキング（山本裕康グループ長）：

2008年版日本透析医学会「慢性腎臓病患者における腎性貧血治療のガイドライン」の発表より約5年が経過し，KDIGOなどの欧米の動向を踏まえてガイドラインの改定に向けて活動を行う。

第58回学術集会で「腎性貧血ガイドラインに関する委員会企画」を開催する。

⑦ 当学会のガイドラインについて，目的，方針，作成手順を明確化し，今後のガイドラインあるいは診療ガイドの作成方針に関する試案をまとめる。

(3) 血液浄化に関連する新技術検討小委員会（山下明泰委員長）：

血液浄化に関連する新技術に関する知識・情報収集等を他学会と協力して行い、未来の腎代替療法開発、研究活動につながる広報事業を行うとともに、新規技術の紹介等を本学会誌に委員会報告等にて上梓する。特に他分野において、すでに定評のある技術の積極的に導入するための試案を作成する。

- (4) 医師・コメディカルスタッフの教育・研究体制の在り方小委員会（伊丹儀友委員長）：
対象を医師とコメディカルにわけ、特に、後者について今後の透析医療に関する研究の方向性を指し示す定期的な検討会議を設定する。
- (5) コメディカルスタッフ研究助成基金運営委員会（友 雅司委員長）：
例年通りの方法で適切な応募研究課題の中から選考する。

5. 統計調査委員会

- 1) 2012年度に行われた「わが国の慢性透析療法の現況」に関するアンケート調査（2012年12月31日現在）の内容を集計し、日本透析医学会学術集会・総会に速報として報告する。
- 2) 日常診療に必要な内容を抜粋し図表化した「図説 わが国の慢性透析療法の現況（2012年12月31日現在）」を作成し、施設会員などに配布するとともに、ホームページに掲載する。
- 3) 2012年度に行われた「わが国の慢性透析療法の現況」に関するアンケート調査（2012年12月31日現在）の内容の詳細をCD化して、施設会員などに配布する。またホームページの会員専用ページに掲載する。
- 4) 2014年1月の本学会誌に「わが国の慢性透析療法の現況（2012年12月31日現在）」を掲載する。
- 5) 「わが国の慢性透析療法の現況（2011年12月31日現在）」の英語版を作成し、本学会英文誌（Therapeutic Apheresis and Dialysis）に掲載する。
- 6) 2013年12月31日時点での慢性透析療法の現況について、透析医療内容の変遷や実態などを把握するためのアンケートを作成送付し、適切な回収作業を行う。
- 7) 会員、各委員会、ガイドライン作成ワーキンググループなどから統計調査委員会に要望のあった調査・解析や統計調査委員会の委員会研究を行い、わが国のエビデンスを創成する。
- 8) 従来から蓄積されてきたデータベースの検証を継続し、今後の統計調査とその解析に十分な信頼性のあるデータベースを構築・管理する。
- 9) 統計調査データベースを用いた公募研究を募集し、統計解析小委員が協力して研究を行い、学会発表や論文化を行い、世界に発信する。
- 10) 統計調査委員会委員や統計解析小委員会委員、さらには公募研究者の指導などの目的で、統計解析に関する講習会などを開催する。
- 11) 2012年度末の「PDレジストリ」の結果を踏まえ、2013年末の調査方法や調査項目などを再検討する。
- 12) 日本透析医会を始めとした他学会、さらには米国USRDS等の調査・研究と連携し、データ供与や解析を行う。
- 13) 2012年末調査結果の確認や問い合わせ業務から、委託業者と事務局との間でクラウドシステムを使用し、データ受け渡しの即時性や正確化を図ると共に、今後のWeb化などの可能性を模索し、併せてデータのセキュリティ確保と安全保存の向上を図る。
- 14) 疫学研究に関する倫理指針の趣旨に沿って、調査結果などを広く公表し、公明性を高める。

6. 専門医制度委員会

日本透析医学会専門医制度委員会は、血液浄化療法に関連する医学と医療の進歩に即応した優秀な医師の養成をはかるとともに、透析医学の向上発展をうながし、国民の福祉に貢献することを目的として活動し、よりよい専門医制度の実施を目指すための事業計画を策定した。

透析専門医として日本専門医制評価・認定機構から認定を受けることが最重要であり、機構から検討要請が迫られている事項について、各小委員会と専門医制度委員会で検討し、早急に整備しなければならない。機構は、基本領域学会の専門医制度整備指針を提示し、基本領域以外の学会の専門医制度整備に関しても基本的には基本領域学会とほぼ同様の内容での整備が必要になるとしている。

1) 専門医制度委員会

機構の専門医制度整備指針に沿った規則細則の整備

研修方略（全体像）の整備

研修プログラムの整備

(1) カリキュラム小委員会の検討課題

研修カリキュラムの整備指導マニュアルの整備（専門医試験問題解説集からの改変）

(2) 専門医・指導医認定小委員会の検討課題

基本領域学会以外の研修期間を3年間としており、本学会の研修期間は認定施設1年、教育関連施設3年となっている点の整備

専門医と指導医認定基準の整備

専門医の適正数を示すデータの整備

専門医の優位性を示すデータの整備

国民に対して、透析専門医がよくわかる説明文の整備

(3) 専門医試験小委員会

受験のための提出書類の整備（経験症例記録など）

無作為抽出による実地調査のための監査体制の整備

筆記試験難易度調整の整備

口頭試験の調整基準の整備

試験問題作成マニュアルの作成

(4) 施設認定小委員会

機構は、指導体制を指導責任者と指導医とした基幹研修施設で専門医を取得し、基幹研修施設では十分に研修できない部分を補うために基幹研修施設の指導責任者が承認した施設で、主たる研修施設とその施設に連携し研修プログラムに沿って研修を行える関連研修施設での研修も可能としているが、本学会は認定施設と教育関連施設があり、専門医が1名の教育関連施設の研修プログラム単独で専門医の取得ができる点の整備施設認定基準の整備

2) 「倫理の問題」については毎年啓発しており、専門医認定試験にも倫理の問題を出題する予定である。

3) 専門医試験を目指す申請者の提出サマリー記載の参考として、症例要約モデルの改訂の必要性をカリキュラム小委員会で検討し、学会誌に掲載する予定である。

4) 透析専門医としての「質」を継続維持していくため2005年度より、本学会専門医の更新を目指す医師を対象とする「セルフトレーニング問題」を導入しており、カリキュラム小委員会編集会議でブラッシュアップを行い、その問題を学会誌に掲載し、専門医・指導医認定小委員会の厳密な審査で所定の正答率をクリアした専門医には一定の研修単位（5単位）を認定している。

2009年度から専門医更新必須条件であるセルフトレーニング問題正答を認定期間5年の内1回以上正答として実施している。なお、問題は学会誌には掲載せず、応募者に問題・解答用紙（マークシート）を送付し、受付期間は5月1日～5月31日迄で実施し問題・正解・解説は9号に掲載する予定である。

5) 血液浄化法に関する生涯教育の一環として、全国を細則第2条の11地区に分け、年1回各地区の各地方学術集会にて生涯教育プログラムとして実施している講演会に対して、専門医・指導医認定小委員会地区委員および施設認定小委員会地区委員が1つの地方学術集会を推薦し、専門医等認定事業から補助金を支給している。

この他に、各地区の専門医・指導医認定小委員会地区委員および施設認定小委員会地区委員が推薦する1つの生涯教育プログラムに対し、専門医制度委員会がその内容を評価し、5つ以下の生涯教育プログラムを選定し、それを開催する集会に同補助金を支給する予定である。

- 6) 専門医制度規則・施行細則については、現状および日本専門医制評価・認定機構からの検討要請に見合った見直しを審議する予定である。
- 7) 2013年度専門医認定審査は、今までと同様に書類審査、客観式筆記試験(問題形式はAタイプ、X2タイプ)、口頭試問試験の3者の総合的な判断で行い、合否を決定する予定である。
2010年から優良な試験問題1,000題のプールを目指して、新規問題の作成および過去の試験問題のブラッシュアップを行い、効率的な試験問題作成を可能にするためデータベース化を行う予定である。
- 8) 専門医認定(専門医認定試験)、専門医認定と更新、指導医認定と更新、認定施設・教育関連施設認定と更新、の公示・受付等については下記の通りである。

① 第24回専門医認定

申請受付の会告	2013年3月～5月
申請書類受付	2013年6月1日～6月30日
専門医認定試験(筆答および口頭による学力試験試問) 10月20日(第3日曜日)	
試験会場	都市センターホテル(東京都)

第4回専門医認定(1994年度認定・1999年度更新・2004年度更新・2009年度更新)更新認定

更新申請受付の会告	2013年8月～10月
更新申請書類受付	2013年11月1日～11月30日

第9回専門医認定(1998年度認定・2004年度更新・2009年度更新)更新認定

更新申請受付の会告	2013年8月～10月
更新申請書類受付	2013年11月1日～11月30日

第14回専門医認定(2003年度認定・2009年度更新)更新認定

更新申請受付の会告	2013年8月～10月
更新申請書類受付	2013年11月1日～11月30日

第19回専門医認定(2009年度認定)更新認定

更新申請受付の会告	2013年8月～10月
更新申請書類受付	2013年11月1日～11月30日

② 第24回指導医認定

申請受付の会告	2013年10月～12月
申請書類受付	2014年1月6日～2014年1月31日

第4回指導医認定(1994年度認定・1999年度更新・2004年度更新・2009年度更新)更新認定

更新申請受付の会告	2013年9月～11月
更新申請書類受付	2013年12月1日～12月28日

第8回指導医認定(1998年度認定・2004年度更新・2009年度更新)更新認定

更新申請受付の会告	2013年9月～11月
更新申請書類受付	2013年12月1日～12月28日

第14回指導医認定(2004年度認定・2009年度更新)更新認定

更新申請受付の会告	2013年9月～11月
更新申請書類受付	2013年12月1日～12月28日

第19回指導医認定(2009年度認定)更新認定

更新申請受付の会告	2013年9月～11月
更新申請書類受付	2013年12月1日～12月28日

③ 第23回認定施設・教育関連施設認定

申請受付の会告	2013年4月～6月
申請書類受付	2013年7月15日～8月15日
第8回認定施設・教育関連施設認定（1998年度認定・2004年度更新・2009年度更新）更新認定	
更新申請受付の会告	2013年4月～6月
更新申請書類受付	2013年7月15日～8月15日
第13回認定施設・教育関連施設認定（2003年度認定・2009年度更新）更新認定	
更新申請受付の会告	2013年4月～6月
更新申請書類受付	2013年7月15日～8月15日
第18回認定施設・教育関連施設認定（2009年度認定）更新認定	
更新申請受付の会告	2013年4月～6月
更新申請書類受付	2013年7月15日～8月15日

7. 国際学術交流委員会

(1) 第58回日本透析医学会総会（平方秀樹会長）にて国際セッションを開催する。

・「Treatment strategy for EDKD patients : Conservative or Dialysis?」

座長：川西秀樹，湯澤由紀夫 6月21日（金）13：30～15：30

Speakers :

1. Dr. Carmine Zoccali (Italy) : European Experience
2. Dr. Adeera Levin (Canada) : Trajectory of CKD progression-KDIGO Guideline Update
3. Dr. Seiji Ohira (Japan) : Choosing dialysis or not : the decision for respecting "life"
4. Dr. Xueqing Yu (Guangzhou) : Treatment of ESKD patients : Chinese Experience
5. Dr. Rodger Greenwood (UK London) : Conservative Kidney Management (CKM) in ESKD Patients

・「Dialysis patients and malignancy : Do they have higher incidence?」

座長：海津嘉蔵，塚本雄介 6月22日（土）14：00～16：00

Speakers :

1. Dr. Robert Foley (USA) : Cancer Risk in US Dialysis Patients
2. Dr. Charles Chazot (France) : Cancer prevalence and death by cancer in hemodialysis patients. Data from a single center in France and from NephroCare dialysis centers in Europe
3. Dr. Kazo Kaizu (Japan) : The risk of malignancy is significantly high in dialysis patients in Japan
4. Dr. Peter Stenvinkel (Sweden) : Protein energy wasting in dialysis patients : impact of malignancies

・学会・委員会企画 6題 ミャンマー，インド，台湾

6月21日（金）10：30～11：40

また総会会期中に，海外参加者，理事長，大会長，評議員をお招きして，Welcome Party を共同開催，Farewell party を主催する予定である。

(2) 日本透析医学会の国際的地位向上，一層の国際交流と協力関係を構築するために，国内で開催される血液浄化療法に関する国際会議，学会に対し，依頼があれば，積極的に委員，代表者を派遣，協力する。

(3) 日本透析医学会の国際的地位向上，一層の国際交流と協力関係を構築するために，海外で開催される国際会議や学会に依頼があれば日本透析医学会から代表を派遣する。

8. 評議員選出委員会

一般社団法人日本透析医学会 第2回評議員選挙について

- 1) 日本透析医学会評議員選出規則第7条に基づき、一般社団法人第2回評議員選出について日本透析医学会雑誌10月号に有権者名簿、立候補資格、地区の定数、選挙期日などについて公示を行う。
- 2) 有権者から、平成25年11月20日までに有権者名簿に脱漏、誤記を認め異議の申し立てがあった際にはこれを受け、異議を認めるときは、有権者名簿の訂正を行い、有権者に公示を行う。
- 3) 平成25年11月20日立候補締め切り、日本透析医学会雑誌12月号に立候補者名を地区別に公示する。
- 4) 平成25年12月1日までに立候補辞退届を受理。
- 5) 投票用紙を有権者に平成26年1月上旬に郵送する。
- 6) 平成26年2月15日に投票受付を締め切り後、平成26年2月下旬に立会人のもとに開票し、選出する。
- 7) すみやかに当選者に通知し、日本透析医学会雑誌3月号に公示する。
- 8) 選挙結果発表日より、14日以内に文書による異議申し立てを受ける。

9. 保険委員会

平成26年度保険改定に向けて内科系社会保険連合（内保連）の血液浄化委員会、日本腎臓学会、日本アフェレシス学会、日本急性血液浄化学会、日本小児腎臓病学会、日本腹膜透析医学会並びに日本透析医会と連携して提案項目の検討を行い、内保連を通じて厚生労働省に提案する。

「透析液水質確保に関する研修」を専門医制度委員会が認定している地方学術集会ならびに全国規模学術集会において実施する。

10. 倫理委員会

- 1) 透析医学会として対応すべき倫理に関する課題に対して、適時委員会を開催し審議する。
- 2) 個人情報安全管理ならびにその適切な取扱いをするため、個人情報管理者である倫理委員長が個人情報の利用等の管理に適時対処する。

11. 腎不全総合対策委員会

- 1) 腎移植の普及に努める。
 - (1) 腎移植への理解を深めるため、日本移植学会、日本臨床腎移植学会など共同にて、日本透析医学会学術集会・総会、および関連学会・研究会などで臓器移植ネットワークの活動内容の紹介を含め、移植、特に献腎移植や生体腎移植の啓発活動を行う。
 - (2) 日本移植学会、日本臨床腎移植学会、日本小児腎臓病学会と協力し、日本腎臓学会の「腎移植研修プログラム（教育セミナー、研修病院での研修）」への会員の参加を積極的に呼びかける。
 - (3) 医療側、患者側の治療法選択と施設選択に役立てるために、上記学会と協力し合い末期腎不全統計の詳細な積極的な公開を進める。この実務に当たる腎不全総合対策委員会ワーキンググループでは、末期腎不全統計、preemptive 腎移植、保存期腎不全治療、腎代替法についてのコンセンサスなど、実質的な検討を行う。また、その成果を学会誌、学会 Web、商業誌、monographなどで公開し、腎不全治療の啓発に努める。
 - (4) ドナー不足に対して、各種学会・研究会などにおいて、臓器提供カードの配布を推進し、臓器提供の増加をはかる。また生体腎移植の実態について啓発を行う。
 - (5) 会員に、改定された「臓器の移植に関する法律」のガイドラインについて広報し、「旅行移植」「病腎移植」

の問題についても積極的な啓発活動を行う。

2) 慢性腎臓病（CKD）対策を講じる。

- (1) 日本腎臓学会、厚生労働省が支援している進行性腎障害に関する調査研究班、本学会統計調査委員会と協力し、当委員会傘下のCKD対策小委員会、腎臓病総合レジストリーワーキンググループを中心に、円滑なレジストレーション、および腎臓病（腎生検）記録カードによる有益なデータ解析が行えるように体制を強化する。
- (2) 小児についても、日本小児腎臓病学会を加えた上記機構で同様に進める。
- (3) 厚生労働省が支援しているCKD重症予防研究についても協力する。

3) 腹膜透析の普及に努める。

- (1) 日本透析医学会で作成された腹膜透析に関するガイドラインを基に教育セミナーなどを行うよう、透析医学会内で推進し、それらへの参加を会員に呼びかける。
- (2) 日本腎臓学会にも働きかけ、腎代替療法の一つとしての腹膜透析を患者に十分説明できるように、腎臓専門医に対し啓発活動を行う。

4) 患者が末期腎不全治療の選択が適正に行えるよう、日本腎臓学会、日本移植学会と合同で「末期腎不全治療選択」小冊子を改訂し、DVDを作成し、この配布と普及に努める。

12. 危機管理委員会

- 1) 東日本大震災学術調査ワーキンググループの活動を継続し、第1次報告書を発刊する。また震災の透析患者に与える影響に関する第2次報告書の作成を行う。
- 2) 東日本大震災学術調査ワーキンググループの作成した報告書、災害時の透析治療の展開に関わる提言書を、自治体、災害対策関連団体、透析関連団体に送付し、災害下の透析医療の整備に関する啓発活動を行う。
- 3) 災害下における透析治療の展開に必要とされる、学術的活動、自治体や関連団体に対する啓発活動について、透析関連団体と連携して具体的な行動計画を策定する。
- 4) 日本透析医学会の理事、統計調査委員会地域協力員は今年度も引き続き日本透析医会の災害対策メーリングリストに参加し、災害時の緊急情報の共有ならびに支援体制の構築にむけて関連団体と協力する。
- 5) 厚生労働省等から報告される、薬剤・医療器具などに関する緊急安全情報の中で、透析医療に関わるものについて、日本透析医学会ホームページを利用して会員に周知を図る。
- 6) 透析医療における安全管理、災害と透析医療をテーマとした学術活動の提案、関連団体の学術活動への協力を行う。
- 7) 日本透析医会が中心になって平成25年度に行う予定になっている「透析医療事故の実態に関する全国調査」について、具体的な協力体制を展開し、透析医療における医療事故防止の啓発に努める。

13. 研究者の利益相反等検討委員会

本委員会は理事長の諮問により利益相反状態の問題の有無・程度の検討、審査請求に対する判断・マネージメント等を行う。